

# 国際園芸アカデミー有識者会議 報告書のあらまし

有識者会議において、国際園芸アカデミーのあるべき姿について、約1年2カ月の間、改革の方向性を検討した。

なお、アカデミーの教育改革方針や方針に基づく取り組みの検討はアカデミーにおいて行い、施設や設備等の「教育環境の充実」及び、業界の壁を越えた産学金官連携による「花と緑の産業振興」については、有識者会議にそれぞれWG 設けて検討を行った。

主な検討結果は以下のとおりである。

## 1 国際園芸アカデミーの教育改革

- ・アカデミーの基本理念に基づく人材育成に向けた3つの方針「卒業認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)」「教育課程の編成・実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)」「入学の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)」を定め、これに沿って教育改革を実施する
- ・これら3つの方針に従い、花と緑の産業に直結した教育を実践するため、次の5つの改革に取り組む
  - 教員の意識改革や企業との連携強化による教育体制の充実
  - 経営手法の習得や商品企画力の醸成による経営感覚に優れた人材の育成
  - 社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材の育成
  - 園芸・緑化技術の習得及び向上による担い手の育成
  - 企業向け社会人教育講座及び、一般人向け生涯学習講座の充実

【想定スケジュール】 可能なものから速やかに実施

## 2 国際園芸アカデミーの教育環境の充実

### (1) 花フェスタ記念公園の活用

- 学生の作品販売施設整備によるコミュニケーション能力の向上
- 実習フィールドに付帯した実習棟整備による学習効率の向上

### (2) 校内フィールドの充実

- スマート農業技術など、高度な技術が習得できる学習環境の整備

### (3) 校外フィールドの確保

- コンソーシアム企業等と連携した企業研修の実施や地域社会と連携した花と緑のまちづくり

【想定スケジュール(機械・施設等)】

	R3	R4	R5	R6
機械・設備	計画策定	導入		
施設	基本構想	基本設計 実施設計	整備	供用開始

### 3 花と緑の産業振興

#### (1) (仮称) ぎふ花と緑の振興コンソーシアムの設置

##### <目的>

業界の壁を越え産学金官が連携し、新商品開発や需要開拓、情報発信等を行い、花と緑の産業振興を図る

##### <構成>

- ▶現在の「清流の国ぎふ花き戦略会議」メンバーが主たる構成員（花き団体等）  
賛助会員：生産者、造園関連団体、メディア、大学等教育機関、企業、研究機関、消費者、自治体、金融機関等

##### <事業実施例>

- ▶**行政主体**：花のある暮らしの浸透を図る「花き文化の振興」  
SDGsの理念に沿った「花と緑のあふれる住みよいまちづくり」  
SNSを活用した県産花きの魅力の「広報・情報発信」
- ▶**企業・大学等教育機関主体**：  
地場産業とコラボした岐阜県オンリーワン商品による「需要開拓」  
ウィズコロナ時代におけるSNS等を活用した流通・販売体制の構築  
SDGsの理念に沿ったパートナーシップの充実による「研究開発」

#### (2) (仮称) 清流の国ぎふ花と緑の振興センターの設置

##### <目的>

企業や大学等教育機関と連携した担い手の育成と産業の振興

##### <機能>

- ▶センター内の「担い手育成支援施設」等において、技術力と経営能力の向上に向けた研修を実施
- ▶コンソーシアム事業の運営支援(事務局)

##### <事業実施例>

- ▶若手生産者の技術力向上研修の実施
- ▶経営管理能力向上のための研修の実施
- ▶新規就農希望者や定年帰農者の技術習得研修
- ▶国際園芸アカデミー卒業生の就農研修などを実施
- ▶コンソーシアム参画企業の研究や実証試験の場として活用
- ▶アフターコロナ時代を見据えた「スマート園芸」など業界のDX(デジタルトランスフォーメーション)化に資する技術開発の試験や研修

#### 【想定スケジュール】

	R3	R4	R5
コンソーシアム	設置		
花と緑の振興センター	設置準備	設置	
担い手育成支援施設	整備計画策定	設計・整備	供用開始